

寒川文書館だより

Vol. 24



五榜の掲示 第三札（慶応4年、菊地彰良さん蔵）

■第24号目次■

資料紹介「五榜の掲示」	2
広報さむかわによる情報発信／新刊のご案内	3
明治150年記念事業 企画展「寒川の明治維新」	4
明治150年記念事業 講演会・図書館展示・古文書講座	5
三枝家文書が寄託／博物館実習／開館時間を変更	6

第24号

2018.10.31

寒川文書館

五榜の掲示

(菊地彰良さん蔵)

明治政府の誕生

慶応3年(1867)10月15日、徳川慶喜は政権の返上を朝廷に奏上した。いわゆる大政奉還である。朝廷は翌16日にこれを勅許、その約2ヶ月後の12月9日には王政復古の大号令を宣言する。ここに約260年続いた江戸幕府は終焉を迎え、明治政府が誕生した。

五榜の掲示

慶応4年(1868)1月3日に勃発した鳥羽伏見の戦いを皮切りに、明治政府と旧幕府勢力は内乱に突入する。この内乱は戊辰戦争と称され、明治2年(1869)まで続くこととなる。

戊辰戦争が開戦して間もない3月15日に発せられたのが五榜の掲示である。明治政府が最初に示したこの対民衆政策とはいかなるものなのか。まずその内容を確認しておこう。

- 第一札 五倫の道の遵守
- 第二札 徒党・強訴・逃散の禁止
- 第三札 キリスト教・邪宗門を信仰することの禁止
- 第四札 外国人に危害を加えることの禁止
- 第五札 士民の本国脱走の禁止

以上5札の高札の内容は、旧幕時代の規則と大差はない。ちなみに、第一札から第三札は「定三札」とし永年掲示で、第四札および第五札は「覚書」で臨機の事項などを公示するものとされた。

それでは五榜の掲示が持つ意味とは何であろうか。高札の掲示を命じた太政官布告第158号(『法令全書』)は、旧幕府の高札を取り除くことを命じている。旧幕時代、高札を掲示する場は高札場と称された。高札場は土盛りがなされ、周囲には矢来が組まれた。また、その周囲は掃き清められ、通行する際は敬礼をすることが求められたという。

つまり高札場は幕府の法令等を周知させる場であり、権威を示す場でもあった。その幕府の権威たる高札を取り除き、新たに明治政府の高札を掲げる行為は、民衆に対して新政権の存在をアピールするためのものといえよう。

寒川の高札場

高札場は、一般的に街道の辻など交通の要所に設置された。それでは現在の町域には、高札場が何ヶ所あって、また何処に設置されていたのだろうか。旧幕時代、現在の町域には11の村があった。その村々には高札場が1ヶ所、多い村には4ヶ所あった(『新編相模国風土記稿』)。

一之宮村には2ヶ所の高札場があったが、明治2年に1ヶ所に纏められた(『寒川町史』2巻)。旧幕時代の高札場はそのままか、整理されて利用されたのだろうか。

それでは高札場は何処に設置されていたのか。町内には高札場が描かれている村絵図が2点現存する。「宮山村絵図」(寒川神社蔵、下記写真)と「小動村絵図」(脇文亮さん蔵)である。これらは、宮山村と小動村の高札場の具体的な場所を現在の私たちに教えてくれる貴重な記録である。

五榜の掲示の撤去

このように掲示された五榜の掲示だが、明治6年(1873)2月24日、一般に広く知れ渡ったとして撤去。その役割を終えることとなった。



(平尾直樹)

「宮山村絵図」の一部
写真の中央部に「御高札」として高札場が描かれている。
現在の宮山神社近辺である。

『広報さむかわ』による情報発信

連載開始！

「寒川を築いた人たち」

本年5月号から、寒川にゆかりの人物を1人ずつ紹介するコラムを始めました。経歴やエピソードに加え、「詳しく知りたい人は」という欄に参考文献も掲げ、ご自身でも調べられるようにしました。

くこれまで紹介した人物>

- 入澤知周（初代村長）
- 北野與一（メロン栽培）
- 井上有一（書家・教員）
- 清水善茂（農業教育）
- 皆川 寛（初代寒川小校長）
- 加藤丘之助（国民学校校長）
- 広田孝基（初代町長）



8月号特集記事

「絵はがきにみる地域の姿」

これまで発行した10種類の絵はがき集の概要や見どころを一挙に紹介したほか、文書館の利用案内、開催中の企画展のPR、ツイッターアカウントの紹介など、5ページにわたる特集で文書館の魅力を伝えました。



町史研究と絵はがき集を発行

『寒川町史研究』第29号

平成29年度に実施した資料保存ワークショップの成果をまとめた特集「襖に閉じ込められた地域の歴史」のほか、縄文時代の寒川の貝塚に関する講演録、大山街道等の展示記録を収録しました。

規格：A5版90頁
価格：500円



絵はがきシリーズ第10集

「さよなら西寒川駅・寒川支線」

昭和59年に廃止となった相模線の西寒川駅。昭和30年代から50年代にかけての懐かしい写真を8枚組の絵はがきにしました。

仕様：8枚組(封筒付)
解説書付
価格：1組500円





幕末維新期の茅ヶ崎と寒川

茅ヶ崎市・寒川町広域連携事業の「歴史・文化財等普及事業」の一環として、両市町に共通する歴史的素材をテーマに展示を開催しています。今年度はその4回目となります。

平成30年は、明治元年から150年という節目の年に当たります。全国の博物館などにおいて、幕末維新に関する企画展やイベントが実施されています。このように世間的に注目を集める幕末維新を本年度のテーマに採用し、企画展と講演会を実施しました。

〔展示会期〕平成30年7月21日(土)～8月31日(金) 〔講演会〕平成30年8月5日(日)

*この事業は(公財)神奈川県市町村振興協会の市町村広域行政助成事業の助成を受けて実施しました。

寒川文書館第27回企画展「寒川の明治維新」

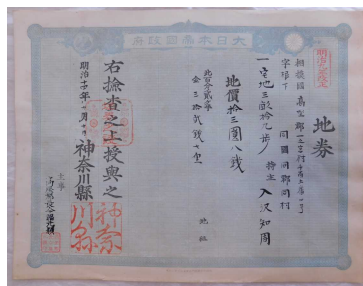
明治維新は地域にどのような影響を与えたのでしょうか。また、地域はそれにどのような対応を示したのでしょうか。本展示では、左記のような視点にたち、町域に残された記録資料をもとに寒川の明治維新を振り返りました。

<展示構成>

- はじめに
- 明治の世へ
 - 明治政府の発足
 - 五榜の掲示
- 旗本の御一新
 - 寒川の領主たち
 - 静岡に移住する旗本
- 神奈川県の誕生
 - 神奈川県の名称と県域
 - 寒川の行政区域の変遷
- 土地制度の変革
 - 年貢制度の問題点
 - 地租改正事業
- 寒川神社の神仏分離
 - 江戸時代の寒川神社
 - 国幣中社
- 暮らしのなかの変化



五榜の掲示 第二札(菊地彰良さん蔵)



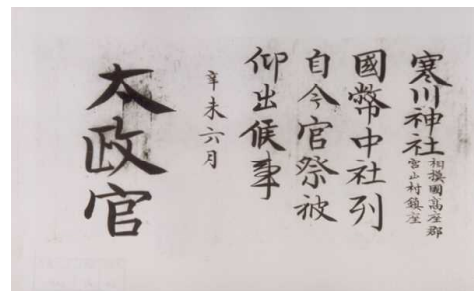
地券(入澤章さん蔵)



公図(寒川町公文書)



展示説明会(8月5日実施)



国幣中社列格書(寒川神社蔵)

茅ヶ崎市文化資料館企画展

「茅ヶ崎の近代の幕開け－幕末から維新へ－」

幕末維新期の茅ヶ崎市域と人々のくらしの変化に注目し、紹介する展示でした。トピックとして、幕末維新の動乱、地租改正、徴兵令、学制が取り上げられていました。



講演会「茅ヶ崎と寒川の幕末維新」

8月5日(土)、シンコースポーツ寒川アリーナ(寒川総合体育館)において講演会を開催しました。柳島の藤間柳庵(1801～1883)が記した「太平年表録」から幕末維新期の社会の一端を解説。37名の方に参加していただきました。

講師 大口勇次郎氏(お茶の水大学名誉教授)



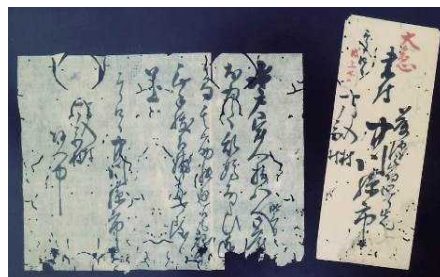
図書館展示「明治維新150年」

総合図書館との共催。図書館が所蔵する明治維新に関する書籍を選書し、「明治維新150年」と題した展示を行いました。概説書、人物伝、時代小説などバラエティーに富んだ88冊を展示しました。



古文書講座「幕末維新期の史料を読む」

第12回古文書講座(全6回)は企画展と関連させ、「幕末維新期の史料を読む」をテーマとしました。当館で収蔵している幕末維新期に関する古文書をテキストに用い、幕末の諸事件、明治期の村明細帳、明治政府の法令、寒川神社の神仏分離、戸長役場制度と地租改正などについて学びました。



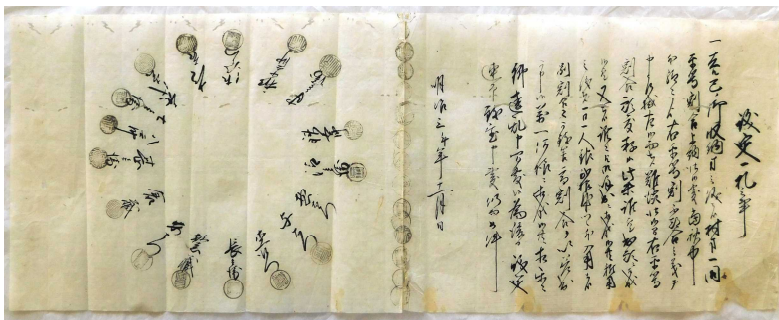
水戸半人乱妨につき廻状(入澤章さん蔵)

※古文書講座のテキストはご自由に閲覧いただけるよう開架書架に置いてあります。

三枝家文書が寄託

平成30年6月に岡田の三枝家文書710点について寄託契約が整い、閲覧できるようになりました。

この文書群は三枝家に伝来したもので、寛政8年(1796)から明治期に作成・収受された文書があります。江戸期の年貢関係や勝手賄など旗本の地方支配の一端を示す資料から、維新期の貢租に関するものまであり、大変興味深い資料群です。利用方法などの詳細はカウンターにお尋ねください。



年貢の平等割をめぐる傘連判状、明治3年(1870)



ご寄託いただいた文書は、資料保存のため燻蒸をした後、中性紙の封筒に入れ、収蔵庫で保管しています。上記写真は、ボランティアさんによる封筒の入れ替え作業です。

博物館実習

東京学芸大学で保存科学を学ぶ学生が、当館で博物館実習を行いました。12日間にわたる実習では、地域資料の整理、非現用文書の整理、公文書の評価選別作業、写真資料の整理など多岐にわたる業務を経験してもらいました。また、実習生が展示の企画を行い、その成果はミニ展示「資料を守り、後世に伝えるー寒川文書館の取り組みー」として発表してもらいました。



開館時間を変更

2018年7月3日から、平日、土日祝日も、開館時間を午前9時から午後5時に変更させていただきました。ご不便をおかけしますが、ご理解のほどお願いいたします。なお、前日までの事前予約で、平日の午後5時から7時に閲覧できる制度を設けております。ぜひご活用下さい。

本日は**閉館**しました
またのご来館をお待ちしています

平成30年7月3日(月)から、文書館の公開・非公開の閲覧時間を次のとおり変更しました。ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

平日 午前9時～午後7時 → 午前9時～午後5時

*土日・祝日は、これまでどおり午前9時～午後5時の開館です。
*休館日は、別途掲示いたします。

事前予約制のご案内

火曜～金曜の午後5時から午後7時までの間に調べ物で来館したい方は、次のとおりお申し込みください。

申込み方法：前掲掲日の午後3時までに、電話またはFAXで、
館へ来館の希望を届けてください。来館の希望は当日午後3時までに
火曜の夜間を希望 → 日曜の午後3時まで
*年取り祭～年取り5時にこの期間の方は、予約は不要です。

17時以降に掲示する貼紙▶

文書館 最近のできごと

■新採用職員研修 4月5日(木)



この4月、寒川町に入庁した職員の研修の一環で、15名が文書館に来館しました。まず、旧石器時代から現代までの町の歴史の概要と地名について講義をしたあと、施設見学。さらに行行政刊行物を使ったワークショップを行いました。2人1組になって、「旭が丘中学校の校名の由来は？」などのお題をくじ引きで選び、開架書架にある刊行物等で解答を導き出し発表し合うというものです。

■全国館長会議 6月8日(金)



国立公文書館が主催する全国館長会議に出席しました。国際アーカイブズの日（6月9日）に近い金曜日に毎年行われるもので、今年の議題は「アーキビストの育成と活用」でした。同館が昨年まとめた「アーキビストの職務基準」を中心に、職員養成などについて議論するもので、その話題提供として、寒川文書館における職員体制や専門的職員の採用・育成について報告を行いました。

■資料燻蒸 6月11日(月)～15日(金)



蔵書点検のため図書館・文書館が6日間休館する期間を利用して資料燻蒸を行いました。専門の業者に委託し、虫とカビを除去するもので、収蔵庫内に64㎡のビニールテントを張り、資料と燻蒸剤を入れて4昼夜の日程で行います。今年は公文書、古文書合わせて約350箱を実施することができました。資料を後世まで保存するために必須となる作業です。今後も可能な限り続けてまいります。

■耕餘祭講演会 9月16日(日)



藤沢市明治市民センターにおいて第4回耕餘祭が開催されました。これは明治初期に藤沢市羽鳥で私塾・耕餘塾を開設した小笠原東陽を地域の皆さんが顕彰する催しで、その記念講演に出講しました。講演のタイトルは「耕餘塾に学んだ寒川の人たち」。耕餘塾の塾生名簿から寒川出身の人たちを抽出し、卒業後の活躍ぶりを、寒川小学校初代校長になった皆川寛（宮山）と、醤油の醸造会社を興す長崎和清（倉見）の2人に絞って紹介しました。

今後の事業予定

■平成30年度後半の事業予定

○デジタルアーカイブ公開記念講演会

「広告マッチラベル 集める愉しみ・学ぶ喜び」

岡田の三枝惣治さんが集めた広告マッチのコレクションがインターネット上で閲覧できるようになるのを記念して、コレクターや研究者にこの資料の魅力をお話しいただきます。

日時：12月2日(日)13時30分より

会場：寒川総合図書館会議室

講師：小野隆弘さん(たるみ隣寸博物館)

内海 孝さん(東京外国語大学名誉教授)

*申込み方法など詳しくは文書館ウェブサイトをご覧ください。

■平成30年度後半の展示

第24回ミニ展示「資料を守り、後世に伝える」

東京学芸大学の博物館実習生の成果として、公文書館で資料を守ることの意義をパネルにしてもらいました。

会期：平成30年10月16日(火)～12月28日(金)

場所：文書館展示コーナー

第25回ミニ展示「亥年のできごと」

過去の亥年のできごとを、12年おきに、公文書や写真などを用いてご紹介します。

会期：平成31年1月5日(土)～3月31日(日)

場所：文書館展示コーナー

第27回企画展「寒川の平成をふりかえる」(仮題)

平成という元号がまもなく終わりを迎えます。この30年間に寒川でどのようなできごとがあったかを、写真や公文書などで振り返ります。

会期：平成31年1月5日(土)～3月31日(日)

場所：総合図書館1階展示室

編集後記

「寒川文書館だより」第24号をお届けします。今号は平成30年度前半に実施した事業を中心にご紹介しました。今年には明治になって150年の節目の年であることから、茅ヶ崎との広域連携事業の共通テーマを幕末維新とし、展示や講演会などを開催しました。今後もタイムリーな話題を提供しながら、資料の大切さを広く訴えかけてまいりたいと思います。

利用案内

■開館時間

午前9時～午後5時

(平成30年7月から変更になりました)

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)

年末年始(12月29日～1月3日)

特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス・

神奈中・相鉄バス 海老名駅～寒川駅線

「図書館文書館前」下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第24号

平成30年10月31日

編集・発行/寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町富山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp/bunsho/>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp

ツイッター https://twitter.com/samu_archives